

第1回口蹄疫対策検証委員会の概要 (平成22年8月5日開催)

1 大臣の挨拶及び座長・座長代理の選出について

本日、第1回口蹄疫対策検証委員会を開催した。開会に当たり、山田農林水産大臣から、「感染ルートを分かる範囲で皆さんに説明してほしい。その時々防疫体制について、客観的に指摘・批判をお願いしたい。皆様の検証結果を踏まえ、家畜伝染病予防法を改正したい。中間的な報告をできれば9月前半にでも出していただければありがたい。」との挨拶があった。

会議の冒頭で、本委員会の座長に日本獣医師会会長 山根義久氏が選出され、座長代理には東京大学農学部教授 真鍋昇氏が指名された。

2 委員会における主な意見について

- ・ 国・県・農家のそれぞれの役割について検証する必要。
- ・ 国・県の広報体制と情報提供が十分だったのか。
- ・ 生産者向けの飼養衛生管理基準をもっときちんと作り、それを生産者に守らせることが必要ではないか。
- ・ 初期対応についてきちんと検討する必要。10年前の教訓が忠実に守られているのか。
- ・ 宮崎県のみが発生が収まったことが、検証をする上での1つのポイントではないか。
- ・ 早期の殺処分には十分なコンセンサスが得られていたのか。経済的補償を含めて検証すべき。
- ・ 2001年における英国の発生や10年前の我が国の発生について、侵入経路が特定できていないのが実状。しかし、できる限り検証すべき。
- ・ 今回はワクチン接種が有効だったと思われるが、必ずしも常にワクチン接種が有効な対応策とは言えないのではないか。初期対応がきちんとなされることが重要ではないか。
- ・ 獣医学部等における産業動物に関する教育が手薄になっている。実際の患畜を見る研修制度等、改善が必要ではないか。
- ・ 口蹄疫は、抗原性や感受性動物についての多様性があることが特徴であり、そのことへの国民の理解を深めていく必要があるのではないか。
- ・ アジアでは21世紀に入り、畜産が盛んになってきているが、衛生面での進展が追い付いていないのではないか。
- ・ 現場の方からヒアリングを行うべき。

3 次回以降の日程について

8月中は、関係者からのヒアリングを実施しつつ、議論を進める予定。